

2020年度「学生による授業評価アンケート」結果報告

2020年度名古屋経済大学FD委員会

これまで本学では学生による授業評価アンケート（マークシート）を実施し、授業改善に努めてきた。しかしながら、2020年度は新型コロナウイルスの蔓延に伴い、例年とは異なる対応をせざるを得ない状況になった。そのため、前期の調査は中止とし、後期に関しては、下記のように修正してオンラインで調査を行った。

- 1) 回答率が大きく低下するのを回避するため、質問項目をできるだけ少なくした。
- 2) 所属している学部の授業全般に対する評価を求めた。

（例年では、学生は履修している複数の科目に対して、それぞれ評価していた）

今年度は授業に対する全般的な評価の平均点であり、前年度は各教科に対する評価の平均点であるために、本報告書での経年比較はあくまでも参考資料という位置づけとなる。

また、上記の調査に加え、各専任教員が担当の授業を1つ選択し、その科目を受講している学生に対して授業評価を求めた。その評価に関する分析結果および改善に関する報告書は学内ウェブサイトで掲載し、共有している。

【実施概要】

所属名	在籍者数	回答者数	回答率
経済学部	573	356	0.62
経営学部	631	390	0.62
法学部	654	380	0.58
人間生活科学部・教育保育学科	215	121	0.56
人間生活科学部・管理栄養学科	252	158	0.63
【全体】	2325	1405	0.60

【設問項目】

設問項目	
1	あなたは授業によく出席しましたか
2	あなたは予習・復習を含め、授業に意欲的に取り組んだと思いますか
3	授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか
5	授業を受けて、新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか

5：強くそう思う　4：そう思う　3：どちらともいえない　2：そう思わない　1：全くそう思わない

【平均点】

設問	経済	経営	法	教育保育	管理栄養	大学全体
1	3.48	3.63	3.36	3.41	3.54	3.49
2	3.46	3.48	3.34	3.27	3.46	3.42
3	3.71	3.63	3.53	3.41	3.46	3.59
4	3.55	3.53	3.40	3.60	3.78	3.53
5	3.61	3.63	3.52	3.64	3.83	3.62
6	3.68	3.64	3.55	3.81	3.89	3.67
7	3.70	3.61	3.54	3.65	3.72	3.63

2020年度後期 経済学部 授業評価アンケート報告書

1. 実施概要

所属名	回収科目履修者数 (在籍者数)(E)	回答者数 (F)	回答率 (F ÷ E)
経済学部	573	356	62.13

今回（2020年後期）のアンケート報告書は、各教員が担当科目で学生に直接行ったアンケートとは別に、下記に記載の設問1～7について Google Forms による学生の回答結果を分析したものである。このアンケートについては、学生が結果をメール送信するものであるため、授業内で実施された2019年の後期のアンケート結果と比べると、回答率は下がると思われた。しかし、今回の回答率は62.13%で、2018年度後期の66.67%、2019年度後期の64.58%よりは低い値であったが、予想されていたほどの低下ではなかった（上の表を参照）。そのことは、学生側もオンライン授業を前期と後期に経験し G-Mail を使用することにも Google Forms によるアンケートに答えることにも慣れてきたということも関係していると思われる。

2. 経済学部教員の集計結果

	設問内容	18年後期	19年後期	20年後期
1	あなたはこの授業によく出席しましたか	4.0	4.1	3.5
2	あなたは予習・復習を含めこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.9	3.8	3.5
3	この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか (設問Eで「はい」と答えた人のみ回答)	4.2	4.1	3.7
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	3.9	3.8	3.6
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	3.9	3.8	3.6
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか	4.0	4.0	3.7
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか	4.0	3.9	3.7

設問 1～7 のすべてにおいて、2018 年度後期、2019 年度後期よりも数値が低くなった。コロナ禍で、前期は全面的にオンライン授業、後期はオンライン授業と対面授業のハイブリッドになるなど、昨年までとは全く異なる状況下で授業が行わざるをえなくなったことが、アンケート結果のポイントの低下と少なからず関係しているのではないかと思われる。また、従来は各授業の評価の平均点であったが、今年度は全般評価の平均点であったため、具体的な授業の内容・教え方に対してよりも授業が行われた状況に、より学生の注意が向けられた点が結果に出たとも考えられる。

3. 学生視点からの集計結果

(1) 「全学生/留学生/留学生を除く/スポーツ学生/スポーツ学生を除く」についての結果

(1～7 の設問内容は 2 の表を参照)

設問	全学生	留学生のみ	留学生を除く	スポーツ学生のみ	スポーツ学生を除く
1	3.5	3.6	3.4	3.7	3.5
2	3.5	3.7	3.4	3.8	3.4
3	3.7	3.9	3.6	3.9	3.7
4	3.6	3.7	3.5	3.8	3.5
5	3.6	3.8	3.5	3.6	3.6
6	3.7	3.9	3.6	3.7	3.7
7	3.7	3.8	3.7	3.7	3.7

2019 年度後期と比較すると、以下の点が指摘される。

「全学年」... 全体的に 0.3 ポイントほど低下した。

「留学生のみ」... 「留学生を除く」よりポイントが高い点は例年通りであるが、2019 年度後期より全体として、0.3 ポイント低下した。設問 3 と 6 は全設問の中で 1 番高く 3.9 であった。設問 1～7 中で設問 3 のポイントが高いのは、2019 年度後期と同じであった。

「留学生を除く」... 全設問において平均して 0.3 ポイント低下した。設問 7 が 3.7 で全設問中 1 番よいポイントを得た。

「スポーツ学生のみ」... 「スポーツ学生を除く」よりはややポイントが高いが、やはり 2019 年度後期と比べると全設問においてポイントが低く、平均して 0.1 ポイント低下した。設問

2、4、7については、ポイントの低下が一番少なく前年度より0.1ポイントだけ低下した。設問3は3.9で全設問の中で1番高く、設問1～7では1番高いという点で、2019年度後期と同様であった。

「スポーツ学生を除く」… 2019年度後期と比べると、全体として0.3ポイント低下した。設問3、6、7が最高ポイントを得て3.7という結果であった。

(2)学年別の結果

(1～7の設問内容は2の表を参照)

設問	1年	2年	3年	4年
1	3.6	3.0	3.9	3.4
2	3.5	3.3	3.5	3.6
3	3.7	3.7	3.8	3.5
4	3.6	3.5	3.6	3.5
5	3.7	3.4	3.6	3.8
6	3.8	3.5	3.7	3.8
7	3.7	3.6	3.8	3.6

2019年度後期と比較すると、以下の点が指摘される

全学年において、平均して0.1～0.5ポイント低下した。4学年中2年生のポイントが1番低いのは2019年後期と同じであるが、2020年後期は他学年との差がさらに開く結果となった。2019年後期と比べ、1番ポイントの低下が少なかったのは、3年生であった。2019年後期と比較し、その他に指摘される点は以下の通りである。

1年生 … 1番大きく下がったのは設問1で0.5ポイント低下した。1番ポイントが高かったのは設問6で3.8であった。

2年生 … 1番大きく下がったのは設問2、3、5、6で、それぞれ0.4ポイント低下した。

3年生 … 設問1については2019年度後期と同点であったが、全体の平均で0.1ポイント低下した。

4年生 … 2019年度後期より1番ポイントが下がったのは設問3で0.5ポイントマイナス

であった。設問 2 については前年度後期と同点であった。設問 5、6 は、4 年生の結果中 1 番高く 3.8 であった。

全学年平均して、設問 1「授業に出席したか」のポイントが 1 番低下し 0.5 ポイントマイナスとなった。今年度は授業環境が大きく変わったことが、その結果に大きく影響していると思われる。

今年度前期は、新型コロナ禍のため、前述のように授業形態が大幅に変わり、前期は急遽全面的にオンライン授業に切り替わった。後期には、3 学部（経済、経営、法）においては、大人数の授業に関してはオンライン授業を継続し、1 部少数人数科目については対面授業が再開された。前期は、教員側、学生側双方とも、オンライン授業の環境を整備するにも、また新しい授業方式にも慣れるのにも時間がかかり、試行錯誤の連続であった。後期からの対面授業についても、3 密を避けるなど感染対策に配慮しながら行われ今までは可能であったアクティビティの一部の実施が難しくなったり、また換気のため授業中も窓もドアも開けているため、真冬には（暖房があるとはいえ）教室の中もかなり寒くなり、防寒対策に気を配りながら授業を受けることが必須となったりなどの大きな環境変化があった。今回の 2020 年度後期授業についてのアンケート結果は、過去数年間と比較してポイントがかなり低下したのは、こうした急激な授業環境の変化が大いに影響していると思われる。

来年度はオンライン授業実施も 2 年目を迎え、教職員、学生ともにそうした教育環境に慣れ、また対面授業も、専門家の助言や教職員、学生の意見を取り入れ感染対策をより改良した形にして行うことになるかと推察される。そのような点を鑑みると、来年度の授業は今年度よりはもう少しスムーズに行うことができると思われる。もちろん、教員の側も学生の興味、ニーズそして理解度に合わせた授業づくりを心掛け、日々授業改善に努めることは言うまでもない。

2020 年度後期 経営学部 授業評価アンケート報告書

経営学部 FD 委員会

1. 実施概要

所属名	在籍者数 (E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
経営学部	631	390	61.8

経営学部学生の授業評価アンケート回答率は 61.8%である。前年度後期の 71.6%と比較すると、9.8%低くなった。回答率が低い原因として、本年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、個別科目ではなく学部授業全体を対象としたアンケートであり、また実施方法が例年の対面実施と異なりオンライン実施となったため、回答への認識に差が生じたことが挙げられる。次年度もオンラインでアンケートを実施する場合は、科目ごとに実施することや授業の課題提出と併せて実施するなど対策を講じる必要がある。

なお、回答者のうち、留学生は 44.1%(390 名中 172 名)、スポーツ学生は 4.9%(390 名中 19 名)である。

* 学年別回答率

所属名	在籍者数 (E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
1 年	170	114	67.0
2 年	148	100	67.5
3 年	164	114	69.5
4 年	149	62	41.6

学年別回答率をみると、1 年生は 67%、2 年生は 67.5%、3 年生は 69.5%と 6 割～7 割が回答しているが、4 年生は 41.6%と半数に満たない結果となった。原因としては、4 年生は卒業年次であるため、単位修得を終えた学生が多く、履修登録科目自体が少ないことが考えられる。

また、回答者(390名)の内訳は1年生が29.2%、2年生は25.6%、3年生は29.2%、4年生は15.9%である。

2. 経営学部平均ポイント

	設問内容	前年度	本年度	大学全体
1	あなたはこの授業によく出席しましたか	4.1	3.63	3.49
2	あなたは予習・復習を含めこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.8	3.48	3.42
3	授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか	4.2	3.63	3.59
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	4.0	3.53	3.53
5	授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	3.8	3.63	3.62
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか	4.0	3.64	3.67
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか	4.0	3.61	3.63

経営学部平均ポイントをみると、大学全体に比べて設問6(教員の熱意)、設問7(授業の進行速度)を除くすべての設問において同等または高い数値を示している。

前年度後期の経営学部教員担当科目と比較すると、すべての設問において前年度より平均して約0.4ポイント低い数値となっている。今年度は遠隔授業が主流であったことが影響していると思われるので、次年度以降の遠隔授業における質的向上を図る必要がある。

3. 経営学部学生視点からのデータ分析

*学年別のポイント(1~7の設問内容は上記参照)

	全学部生	1年	2年	3年	4年
1	3.63	3.39	3.63	3.81	3.74
2	3.48	3.54	3.58	3.46	3.26
3	3.63	3.53	3.95	3.56	3.44
4	3.53	3.46	3.62	3.58	3.39

5	3.63	3.61	3.74	3.58	3.60
6	3.64	3.65	3.74	3.54	3.63
7	3.61	3.65	3.77	3.53	3.45

1年生はすべての設問の中で、設問1(授業の出席度)が3.39と最も低く、全学年と比較しても同様の結果となった。したがって、1年生の出席率の向上および自発的な授業参加を促す必要がある。2年生、3年生、4年生は、共通して7つの設問中、設問2(授業に対する姿勢)が最も低く、授業に対する動機づけや意欲を高める工夫が必要である。

*** 属性別のポイント(1~7の設問内容は上記参照)**

	全学部生	留学生のみ	留学生除く	スポーツ学生のみ	スポーツ学生除く
1	3.63	3.62	3.64	3.58	3.63
2	3.48	3.69	3.31	3.58	3.47
3	3.63	3.74	3.55	3.89	3.62
4	3.53	3.59	3.48	3.47	3.53
5	3.63	3.69	3.58	3.58	3.63
6	3.64	3.81	3.50	3.89	3.62
7	3.61	3.64	3.59	3.79	3.60

留学生は設問1(授業の出席度)以外を除いて全学部生平均に比べ高い数値を示している。しかし、前年度後期と比較すると、前年度はすべての設問において4.0以上の高い数値を示していたが、本年度はすべて4.0未満となった。一方、日本人学生(留学生を除く)と比較すると、設問1(授業の出席度)を除いてすべての設問において留学生が高い結果となった。とりわけ、日本人学生は設問2(授業に対する姿勢)と設問6(教員の熱意)は留学生との差が0.3ポイント以上となっており、引き続き日本人学生の意欲の引きあげに加え、教員の意欲を伝えるための対策が必要である。

スポーツ学生のみでは、設問1(授業の出席度)、設問4(授業のわかりやすさ)、設問5(新しいものへの見方や考え方の修得)が低くなっているものの、前年度同様日本人学生のなか

ではスポーツ学生の数値が高い傾向にある。しかしながら、前年度に続き、設問 4(授業のわかりやすさ)は低い結果となっているため、わかりやすい授業や授業内容の理解度を高めるための工夫も必要であると思われる。

以上

2020年度後期 法学部授業評価アンケート結果報告書

1 実施概要

所属名	在籍者数	回収者数	回答率
法学部	654	380	58.11
【全体】	2,325	1,405	60.43

今回のアンケートは、新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインで行われた。従来と異なり、全学生を対象とし、1学生1回答を呼びかけた。これまでも、法学部専任教員担当科目におけるアンケート回答率が低いことが指摘されていたが、今回のアンケートでも、法学部生の回答率は低くなっている。今後も回答率のより一層の向上を目指して、呼びかけを行いたい。

2 前年度との比較

	設問項目	前年度	本年度
1	あなたは授業によく出席しましたか	3.9	3.4
2	あなたは予習・復習を含め、授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.8	3.3
3	授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか	4.2	3.5
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	3.9	3.4
5	授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	3.8	3.5
6	教員の教え方には、熱意があったと思いますか	4.0	3.6
7	授業の速さや進め方は、適切だったと思いますか	3.9	3.5

前年度とあるのは、2019年度後期の法学部生のデータである。本年度と同種のデータと見なして、比較すると、全ての項目で、前年度の数値を下回っている。最も数値が下がったのは設問3で、0.7ポイントの下落、最も下落の程度が低いのは設問5で、0.3ポイントの下落であった。これほどまでに大きな数値の低下は近年では例がなく、オンライン授業の悪影響と考えられる。

3 法学部所属教員の結果（他学部科目及び他学部履修生を含む）

今年度は、法学部所属教員のデータはない。

4 法学部生学年別結果（全学生）

設問	内容	全学年平均	1年	2年	3年	4年
1	あなたは授業によく出席しましたか	3.4	3.4	3.3	3.3	3.6
2	あなたは予習・復習を含め、授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.3	3.4	3.2	3.3	3.5
3	授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか	3.5	3.5	3.5	3.7	3.5
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	3.4	3.4	3.1	3.6	3.6
5	授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	3.5	3.7	3.3	3.5	3.6
6	教員の教え方には、熱意があったと思いますか	3.6	3.6	3.4	3.7	3.6
7	授業の速さや進め方は、適切だったと思いますか	3.5	3.6	3.3	3.7	3.7

(同スポーツ学生)

設問	内容	全学年平均	1年	2年	3年	4年
1	あなたは授業によく出席しましたか	3.4	3.5	2.8	3.6	3.7
2	あなたは予習・復習を含め、授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.2	3.1	3.3	3.2	3.3
3	授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか	3.5	3.5	3.2	3.5	3.6
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	3.5	3.4	3.4	3.3	3.7
5	授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	3.5	3.5	3.4	3.3	3.8
6	教員の教え方には、熱意があったと思いますか	3.5	3.6	3.2	3.6	3.7
7	授業の速さや進め方は、適切だったと思いますか	3.6	3.5	3.4	3.6	3.9

(同留学生)

設問	内容	全学年平均	1年	2年	3年	4年
1	あなたは授業によく出席しましたか	3.7	2.9	4.0	4.1	3.6
2	あなたは予習・復習を含め、授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.5	3.3	3.3	3.8	3.6
3	授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか	3.7	3.3	3.9	3.9	3.8
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	3.3	2.5	3.2	4.1	3.6
5	授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	3.7	3.8	3.5	3.8	4.0
6	教員の教え方には、熱意があったと思いますか	3.8	3.7	3.6	4.2	3.8
7	授業の速さや進め方は、適切だったと思いますか	3.6	3.0	3.5	4.1	4.0

まず、全学生について、設問全体の平均値をみていく。全学年で見ると、平均値は前年度後期と比べて0.3ポイント低下した(3.5)。設問別に見ると、設問3が0.7ポイントの低下であった。また、設問1「あなたは授業によく出席しましたか」、設問2「あなたは予習・復習を含め、授業に意欲的に取り組んだと思いますか」、設問4「授業内容はわかりやすかったと思いますか」は、いずれも0.5ポイントの低下であった。今回、各学年の平均値をみると、1,3年生が3.5、4年生が3.6であるのに対し、2年生は3.3と低い数値を示している。前年度後期では、いずれの学年も3.9~4.0を示していたのに、特に2年生が大きく低下した。

次に、スポーツ学生について、設問全体の平均値をみていく。全学年で見ると、平均値は前年度後期より0.3ポイント低下した(3.5)。学年別の平均値をみると、2年生が3.2と相対的に低く、4年生が3.7と相対的に高く、1,3年生が3.4であった。

スポーツ学生と全体とを比較すると、全学年平均では、数値が変わらない(3.5)。学年別にみると、4年生はスポーツ学生が全体を0.1ポイント上回るものの、他の学年では0.1ポイント全体がスポーツ学生を上回っている。この数年スポーツ学生と全体の差は縮小傾向にあるとの分析が示されており、今回の結果では、全学年の平均値は変わらないこととなった。

最後に、留学生についてである。従来、法学部では留学生についての分析は行ってこなかったが、今回は数値も出ているため、全体との比較を行うことにする。全学年平均で見ると、留学生は全体より0.2ポイント高い。従来、他学部の分析でも、留学生は数値が高いことが指摘されており、法学部も同様であるものと

思われる。学年別に見ると、2年生では0.3、3年生では0.5、4年生では0.2ポイント、いずれも留学生が全体を上回っている。しかし、1年生では、0.3ポイント留学生が全体を下回っている。

4 履修者数別結果

今年度は、授業ごとのデータはない。

5 授業のわかりやすさ) 及び新しいものの見方 (法学部関係科目及び法学部専任教員が担当する科目)

今年度は、授業ごとのデータはない。

6 授業・教室管理について

今年度は、授業ごとのデータはない。

7 複数教員による授業

今年度は、授業ごとのデータはない。

8 クロス集計

今年度は、授業ごとのデータはない。

9 専門共通基礎科目について

今年度は、授業ごとのデータはない。

2020年度後期 人間生活科学部教育保育学科 授業評価アンケート報告書

教育保育学科 FD 委員会

1. 実施概要

本学科の回答率は 56.3%であり、大学全体と比較するとやや低い値となっている（表1）。今年度はオンラインでの評価を学生に求めたため、前年（85.47%）と比較しても低い値になっている。

表 1

所属名	在籍者数 【E】	回答者 【F】	回答率 【F/E】
教育保育学科	215	121	56.3%
【全体】	2325	1405	60.4%

2. 教育保育学科の教員担当科目の平均ポイント

前年度と比較すると、どの設問に関しても低い値になっている。特に、出席（設問1）に関する低下が目立った。

表 2

	設問項目	前年度	本年度
1	あなたは授業によく出席しましたか	4.5	3.4
2	あなたは予習・復習を含め、授業に意欲的に取り組んだと思いますか	4.0	3.3
3	授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか	4.3	3.4
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	4.0	3.6
5	授業を受けて、新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	4.1	3.6
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか	4.2	3.8
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか	4.1	3.7

シラバスについて

設問E「シラバスを読んだかどうか」という質問について、前年と比較すると、大きく改善されている。特に1年生はシラバスをしっかりと読んで受講したことが伺われる。今年度は、多くのオンライン授業が実施されたため、その分シラバスを読むことで学生が情報を得ようとしたことが推測される。

表 3

	前年	本年度
全体	18.6	55.4
1年	20.2	73.0
2年	12.2	48.4
3年	20.8	45.0
4年	12.5	48.5

3. 学生視点からのデータ分析

(1) 学年別の結果

前年度までは4年生の評価が大きく低下する傾向があったが、今年度はその傾向が見られなかった。4年生に関しては、設問1から3の評価が前年よりもやや高くなった。

表 4

設問	1年		2年		3年		4年	
	前年度	本年度	前年度	本年度	前年度	本年度	前年度	本年度
1	4.4	3.3	4.3	3.3	4.1	3.3	3.5	3.7
2	4.1	3.3	3.8	3.1	4.1	3.3	2.8	3.4
3	4.4	3.6	4.6	3.1	4.5	3.4	3.0	3.6
4	4.2	3.6	4.1	3.2	4.4	3.8	3.9	3.9
5	4.2	3.7	4.1	3.3	4.4	3.6	3.6	3.9
6	4.3	3.9	4.3	3.5	4.6	3.8	4.1	4.1
7	4.2	3.7	4.2	3.3	4.4	3.7	4.0	4.0

(2) スポーツ推薦の学生について

前年度と比較するとどの値も低くなっているが、同じ年度内で比較すると、本年度もスポーツ推薦で入学した学生とそれ以外の学生間で大きな差異は見られなかった。

表 5

設問	スポーツ推薦の学生		スポーツ推薦以外の学生	
	前年度	本年度	前年度	本年度
1	4.0	3.1	4.3	3.5
2	3.9	3.6	4.0	3.2
3	4.8	3.8	4.4	3.4
4	4.2	3.9	4.3	3.6
5	4.3	4.0	4.2	3.6
6	4.4	4.0	4.4	3.8
7	4.4	3.9	4.3	3.6

2020 年度後期 人間生活科学部管理栄養学科 授業評価アンケート結果分析

管理栄養学科 FD 委員

1. 実施概要

今回、管理栄養学科では授業に対する全般的な評価 7 項目（昨年度は 14 科目・13 項目）についてアンケート調査を実施し（google form にて）、その結果を昨年度後期授業評価アンケート結果と比較し分析を行った。昨年度後期アンケート調査回収率は 90.69%だったが、今年度の回収率は 62.70%と低い結果となった。

2. 全体平均結果および学年平均結果と考察

表 1

設問	設問項目	前年度	本年度
1	あなたは授業によく出席しましたか	4.5	3.54
2	あなたは予習・復習を含め、授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.9	3.46
3	授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか	4.3	3.46
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	4.0	3.78
5	授業を受けて、新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	4.0	3.83
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか	4.3	3.89
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか	4.0	3.72

(全体平均)

表 2

設問	設問項目	1年	2年	3年	4年
1	あなたは授業によく出席しましたか	3.31	3.53	3.43	3.85
2	あなたは予習・復習を含め、授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.31	3.66	3.39	3.53
3	授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか	3.51	3.41	3.50	3.43
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	3.55	4.00	3.61	3.98
5	授業を受けて、新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	3.80	3.81	3.75	3.91
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか	3.71	3.94	3.96	4.02
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか	3.45	3.72	3.71	4.00

(各学年平均)

昨年度と比較し、全ての項目で低い結果となった(表1)。設問1の「あなたは授業によく出席しましたか」に関しては、管理栄養学科ではどの科目も管理栄養士養成にかかる必修科目であり、毎回授業に出席することは当然のことと捉えられており例年高いポイントを示してきたが、今年度は非常に低い結果となった。特に1年生のポイントが低かった(表2)。設問2の「あなたは予習・復習を含め、授業に意欲的に取り組んだと思いますか」の項目は、例年低いポイントを示し重要課題となってきたが、設問4の「授業内容はわかりやすかったと思いますか」との関係性について、一昨年より教員が分かりやすい授業をすることにより授業に対する興味・関心が高まり、予習復習を含めた意欲的な取り組みにつながると分析し、自らが学ぶ姿勢の獲得に向け教員も手立てを講じ習慣づけること

が、最終的には管理栄養士国家試験合格につながると考え改善を図ってきた。しかし、今年度の結果を踏まえると更なる手立てが必要になると考えられる。設問4の「授業内容は分かりやすかったと思いますか」と設問5の「この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか」との関係性についても正の相関にあると考えられ、今後も学科教員の授業への取り組みや熱意などを向上させ、全体的な改善を図る必要があると考えられる。

3. 大学全体結果と考察

表 3

設問	経済	経営	法	教育保育	管理栄養	大学全体
1	3.48	3.63	3.36	3.41	3.54	3.49
2	3.46	3.48	3.34	3.27	3.46	3.42
3	3.71	3.63	3.53	3.41	3.46	3.59
4	3.55	3.53	3.40	3.60	3.78	3.53
5	3.61	3.63	3.52	3.64	3.83	3.62
6	3.68	3.64	3.55	3.81	3.89	3.67
7	3.70	3.61	3.54	3.65	3.72	3.63

大学全体結果と比較すると、管理栄養学科はどの項目も高いポイントにあるが、4.0以上の項目が全くなかった（表3）。その要因として、今年度のコロナ感染症対応による授業形態や度重なるオンライン授業への変更等で自己学習の時間が増え、自らが学ぶ姿勢や習慣が身につけていない学生たちの授業に対する意欲の低下が影響していると考えられる。今後は授業方法や具体的な取り組み方などを学生に明確に周知するとともに、学科教員の授業への取り組みなど共通理解を図り、学科としての方向性を確認しておく必要もあると考えられる。

4. スポーツ推薦学生とそれ以外の学生による結果と考察

表 4

設問	スポーツ推薦学生	スポーツ推薦学生以外
在籍	12.0%	88.0%
1	4.37	3.42
2	4.16	3.37
3	3.63	3.44
4	4.11	3.73
5	4.26	3.77
6	4.21	3.85
7	3.95	3.68

スポーツ推薦入学とそれ以外との違いを見るために、各項目ごとにポイントの高い方に背景色を付けた（表 4）。今回は学年ごとの分析は行わなかったが、全体的にはどの項目もスポーツ推薦入学の学生の方がポイントが高い結果となった。この結果から、スポーツ推薦入学の学生は、部活と学業の両立が図られておりライフスタイルの整理ができていると考えられる。スポーツ推薦入学の学生の授業に対する意欲・関心の高さなど良い影響を全ての学生が共有し合い、授業や管理栄養士国家試験に向けて意識を高め合えるように全教員で支援する必要があると考えられる。

5. まとめ

大学における教育を充実させていくために、教員自らの教授能力を向上させるために不断の努力を重ね、学生の学修意欲を喚起するような授業を展開していくことが重要であると考えます。また、学科としての教育目標を明確に示し、その目標を実現するための視点から、教育課程の編成や連携、個々の授業科目の開設を行った上で、各教員がその趣旨に添った授業を行うという一連のプロセスとしての取組みが重要であると考えます。